

# 議会だより

西海市

The SAIKAI  
Municipal Assembly News

第18号 平成22年  
2月5日発行



久しぶりの大雪に喜ぶ子どもたち  
(西彼町大串)

## おもな内容【第4回定例会】

平成21年第4回定例会、補正予算.....	2 ~ 3
付託議案の委員会審査結果報告.....	4 ~ 6
行政調査報告.....	7 ~ 9
所管事務調査、LCAC 中間報告 .....	10 ~ 11
一般質問.....	12 ~ 19
中学生の声、市民の声.....	20

# 平成21年 第4回 12月定例会



## 本会議

平成二十一年第四回定例会は、十二月四日から十八日までの十五日間の会期で開催され、諮問一件、条例五件、その他三件、補正予算十件が上程された。

なお、上程されたうち、平成二十一年度一般会計補正予算（第三号）は特別委員会に付託、審査は全体会で行った。また条例及び他の補正予算は、所管の常任委員会に付託して審査を行い、最終日の十八日の本会議において、全ての議案が可決された。

なお、一般質問には十六人が登壇し十二月八日から十一日の四日間、田中市長と行政全般について、活発な論議が展開された。

## 本会議の主な質疑

**平成二十一年度西海市一般会計補正予算（第三号）  
病院事業改革及び地域医療  
確保事業について**

**質疑** 市立病院の受入れ

候補の確保をコンサルタント会社に委託するため、二百万円  
の委託料が計上されている  
が、そこで市立病院を民間に  
委託する方法と、完全に移譲  
する方法があるがその方針は、

**市長** 地域の医療の継続、

確保することが大前提だ。特  
に大島、崎戸地区の市民が真  
に望む医療体制を今後確保す  
るためには民間移譲も視野に  
コンサルに委託するもの、現

状の市立病院が地域医療と、

かけ離れた状況を見ることが  
ない状況である。いつときも早  
く解決することを前提にした  
委託料二百万円である。

**質疑** 市長の熱意は感じ

るが、仮に民営化する場合さ  
まざまなハードルがあると思  
うが。

**市長** 職員組合には病院

を含め趣旨について説明を  
行った。病院としての機能を  
低下させず、現状より高度な  
医療を市民に提供することが  
前提である。将来性のない事  
業体の算入は絶対にあっては  
ならない。厳しい条件を提示  
していく。

## 質疑

民営化について、  
特に大島・崎戸の住民の方へ  
の病院改革について十分な説  
明が必要と思うが。

**市長**

これまで地域住民  
や地域審議会、行政区長への  
意見聴取を行ったが、さらに  
多くの方々の意見を聞く機会  
を早くつくりたい。

## 新たに特別委員会設置

議員発議で、政治倫理条例  
の制定に向けて、特別委員会  
の設置を決める。

### 政治倫理条例制定 特別委員会

委員長	杉本 秀伸
副委員長	田口 昇
委員	浅田 幸夫
〃	佐嘉田敏雄
〃	永田 良一
〃	杉澤 泰彦
〃	田川 正毅
〃	平野 直幸
〃	小嶋 俊樹

# 平成21年度 一般会計 補正予算 (第3号)

補正額 6 億9546万円原案可決  
 予算総額211億8646万円に  
 地方債 5 億4620万円を繰上償還

## 予算審査特別委員会

補正予算の主な内容は、税収の増に伴う地方債の繰上償還、人事院勧告等による人件費の減、事業費確定による不  
 要額の減及び今後不足が見込まれる経費の追加などである。  
 主な事業として、「行政改革推進事業」、「離島航路経営安  
 定資金貸付事業」、「地域子育て創生事業」、「新型インフルエ  
 ンザ対策事業」、「有害鳥獣被害防止対策事業」、「全国瞬時警  
 報システム整備事業」及び県営事業の地元負担金等が計上  
 された。



## 主な質疑

法人税の増について

**質疑** 大口の法人税が一億五千五百万円程増加しているが、大口の法人税とは。

**答弁** 税額は公表できないが、企業名では大島造船と電源開発の二社である。

生活保護費について

**質疑** 生活保護費返還金約三十八万円とは。

**答弁** 保護費を受給した後に収入があった場合に返還を求めるもので十一件である。

離島航路の貸付について

**質疑** 離島航路経営安定資金の一千万円の内容とその他の補助金の内訳は。

**答弁** 崎戸商船への貸付で、決算期が九月であることと、資金繰りが非常に厳しいことから運営支援の形で貸付けているもので、貸付期間は一年以上となっている。次に



崎戸港

同商船に対する補助の内訳は平成二十一年度で国が約八千三百万円、県が約三百六十四万円、市が約七十三万円である。

市立病院改革について

**質疑** 病院事業改革及び地域医療確保事業の委託料二百万円の中身で、①市立病院の規模は現状のままか、②委託料二百万円計上の積算根拠は、③委託料二百万円は上限でこれ以上の増額はないのか。

**市長** 現在、一般病床、療養病床併せて五十四床の規模であるが現状でいくのかどうかも含めて検討するが現在の医業収入等を見ても、非常に厳しい現状である。委託料の積算は全国医療コンサルタントの基準に基づいている。コンサル料の今後の増額は前提としていない。

イノシシ対策について

**質疑** 有害鳥獣被害防止対策事業の電柵設置数、助成額と該当件数は。また今回の補正額三百四十七万円が不足はないのか。

**答弁** 現在までの申請六十二団体、受益面積八千八百三十一アールで補助率は五十%以内である。なお申請状況から補正額で今年度分としては足りるものと考えている。

# 総務文教常任委員会

○西海市税条例の一部を改正する条例の制定について

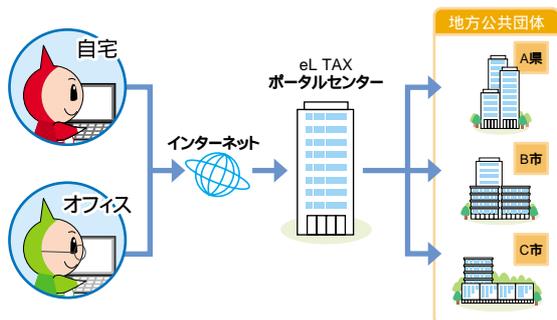
納税者または特別徴収義務者が市長に対して行う申告、申請、請求その他書類の提出のうち必要と認めるものについて、社団法人地方税電子化協議会が運営するeLTAX（エルタックス）を使用して行政手続きを行うことができるよう所要の改正を行うものである。

**質疑** 電子証明書を得るにはどうするか、また、個人事業主は直接利用できるのか。

**答弁** エルタックスは利用届を、インターネットを通じて提出していただき、手続きの完了通知をメールで申請者に送る。同時にパソコン用CDが申請者に郵送され、自宅のパソコンにソフトを入れ、暗証番号等を取得して電子申告ができる。

どここの自治体も二、三年内には導入する予定である。

原案可決



## eLTAXご利用の流れ

- 1 利用届出
  - 2 手続き完了通知
  - 3 ソフトウェア取得
  - 4 暗証番号変更
  - 5 電子申告
- まずは



○西海市立大島幼稚園保育料等徴収条例の一部を改正する条例の制定について

市立大島幼稚園と市内私立幼稚園の入園料及び保育料には格差があり、平成十八年度から段階的に是正してきた。

なお、現在においても二・七二倍の格差があり、今回の改正により二・二六倍にするものである。現行の入園料及び保育料をそれぞれ一・二倍とし、入園料五千二百円を六千二百円に、保育料五千八百円を七千円に改正するものである。

**質疑** 今回の保育料等の値上げで増収額はいくらか。

**答弁** 市立大島幼稚園の園児数は十九人であり、総額で入園料一万九千円増、保育料二十七万三千六百円増の計二十九万二千六百円の増収を見込んでいる。

**質疑** 保育料等の改正に向けて保護者に説明を行ったのか。

**答弁** 平成十八年度の保育料等の改正時に段階的に改正することは話している。

**質疑** 保育料等の改正と同時に、私立幼稚園就園奨励費補助金も是正を行い、私立幼稚園の保護者負担を減らす



市立大島幼稚園

入歳出それぞれ八万九千円を減額し、総額を入歳出それぞれ一億二千六十七万四千円にする。職員一人の退職や給与改定に伴う人件費等の減額、印刷製本費において回数券印刷執行残減額のための補正である。

**質疑** 職員数はどのようになるか。

**答弁** 職員六名、嘱託職員二名の八名であったが、職員が五名、嘱託職員二名、臨時船員一名の八名となる。

原案可決

べきである。市は、保育所には国の基準以上の手当を行っているようであるが、幼稚園にも同様な対応はできないか。

原案可決

○平成二十一年度西海市交通船特別会計補正予算（第一号）

歳入歳出予算の総額から歳



交通船 New 松島

# 産業建設常任委員会

○西海市下水道事業特別会計補正予算について

瀬戸・大串処理区公共下水道工事の工法変更及び内浦処理場改修工事の追加による工事請負費の増額によるもので、既存の予算に一千百三十三万九千円を追加するもの。

**質疑** 大瀬戸・大串の進捗は。

**答弁** 大串は約六十%、大瀬戸は約二十%。

**質疑** 最終的に何年完成か。

**答弁** 大串処理区を平成二十八年、瀬戸処理区を平成三十年を予定している。  
**原案可決**

○西海市四本堂公園の指定管理者の指定について  
○西海市八人ヶ岳公園の指定管理者の指定について

西海市が設置する観光関連施設を引き続き指定管理者に行わせることの提案。経過として公募をしたが申請書の提出は現指定管理者の一社のみで、申請ヒヤリングまた選定

委員会等で出席を求め協議選定結果、指定管理者の候補者と認める。

**質疑** 選定審議概要で下方修正、収支計画の見直しを条件に、計画書の中で、収支計画、実績等が出されているか。

**答弁** 夏休み体験講座実施のための経費、広告宣伝費の計上、遊具施設整備メンテナンス用品、車両等の老朽化で修繕交換が増えている。この他に施設の改修を検討している。

**質疑** 指定管理者の収益が黒字の場合は。

**答弁** 企業努力等で黒字



四本堂公園

になれば指定管理者の収入となる。  
**原案可決**

○公の施設の区域外設置に関する協議について

県からの譲与で、農道白似田線(旧西彼町久四谷線)の一部が長崎市の区域内に属するため公の施設を市の区域外に設置することについて議会の議決を求めるものである。

**質疑** 道路災害等の経費負担はどうなっているか。

**答弁** 道路災害が起きた場合、所管については西海市となる。長崎市側の土手等の災害は長崎市で申請はしてもらう。その後互いに協議をする。

**原案可決**

○西海市営住宅管理条例の一部を改正する条例の制定について  
○市営特定公共賃貸住宅管理条例の一部を改正する条例の制定について

特定公共賃貸住宅であった江島団地の有効利用を図るため、準特定優良賃貸住宅として、公共賃貸住宅の不足解消を図るため、大串の県職員住

宅を買い取り、市営単独住宅として管理するため当該住宅を追加し、耐用年数を経過した菅無田団地、丹納住宅及び平島単独住宅を用途廃止するための改正を行う。

**質疑** 入居者の緩和措置

**答弁** 政策会議の中でも十分議論はした。単独住宅にして医師住宅に使用いかと県とも協議をしたが、入居が全くない状態で、補助金返還を考える時難かしいと判断をした。今回ワンランク下げた準特定優良賃貸住宅型に用途変更をする。

一月以降に公募をかける。  
**原案可決**



江島団地D

○平成二十一年度西海市簡易水道事業特別会計補正予算について(第三号)

既存の予算から百九十二万三千円を減額し、歳入歳出予算の総額を九億三千七百六十四万四千円とする。補正の内容は消費税納税額の確定に伴う公課費の追加、西彼地区浄水場砂上げ業務の事業量確定に伴う委託料の減額、給与制度の改定等に伴う人件費の減額を計上し一般会計繰入金を減額している。  
**原案可決**

○平成二十一年度西海市水道事業会計補正予算(第二号)

収益的支出額から六十万一千円を減額し、収益的支出総額を二億二千六百七十五万五千円としている。補正の内容は、給与制度の改正等に伴う人件費の減額によるもの。  
**原案可決**

○平成二十一年度工業用水道事業会計補正予算(第二号)

収益的支出額から十万二千円を減額し、収益的支出額を七千八百九十九万八千円としている。補正の内容は、給与制度の改正等に伴う人件費の減額によるもの。  
**原案可決**

# 厚生常任委員会

○西海市犬取締条例の一部を改正する条例の制定について

長崎県手数料条例が改正され、平成二十二年四月一日から、犬及び猫の引取りが有料となる。飼い主が手数料を納めて、直接、県へ引渡す方法に変わる。

**質疑** 具体的に、どこにいくら支払うようになるか。

**答弁** 引取り場所は、西彼保健所と大村の畜犬管理所となる。

費用は、成犬・成猫が一頭ごとに二千円。子犬・子猫は十頭までごとに二千円となる。

**質疑** 住民が、この制度に慣れるまでに、どのようなことを検討しているか。

**答弁** 広報等で周知を予定している。ある一定期間は、県との仲立ちをするようにしたい。

**質疑** 野良犬の捕獲は、続けていくのか。

**答弁** これまでどおり、通報があったときは、捕獲機を設置する。

原案可決

○平成二十一年度西海市立病院事業会計補正予算（第二号）

人事院勧告等を受けての、給与改定による職員給与費の減額調整、及び医業収益の減による、一般会計補助金の増額等による。

**質疑** 来年の三月までの見込みは、実現可能か。

**答弁** 一般病棟の入院は二十一人、療養病棟では、九人は確保できる見込みであり、若干収入は上ると考えている。

**質疑** 一般会計からの繰入は、三億円を超えないように努力してほしい。

**答弁** 一般会計からの繰入金二億九千八百八十七万七千円と介護保険負担金百六十



捕獲された犬



西海市立病院 1階ホール

二万八千円を足した額が、全体の金額であり、三億円を超えてしまうこととなる。

**質疑** 外来は、人口減などある中で、ある程度頑張っている。入院の激減が極めて影響していると思う。院内での取組みは。

**答弁** 病院の行く末が、患者の家族、住民にとって不安に思われ、入れられないというところもあると思う。

原案可決

○平成二十一年度西海市特別養護老人ホーム大崎やすらぎ荘特別会計補正予算（第二号）

百九十五万九千円を減額計上。

**質疑** 職員の退職に伴う補正の内容は。

**答弁** 看護師一人と介護

員一人、合わせて二名の補充を予定している。

**質疑** 補充する職員の形態は。

**答弁** 嘱託職員である。原案可決

○平成二十一年度西海市国民健康保険特別会計補正予算（第三号）

六百五十三万五千円の追加計上。歳入は、国民健康保険税の減額、歳出は、保険給付費の増額による。

**質疑** 平成二十年度と平成二十一年度の比較で、被保険者が、四百七十七人減っているが、毎年これくらい減っているのか。

**答弁** 後期高齢者医療保険が始まったため、二十年度の比較が難しい。

**質疑** 一般被保険者国民健康保険税四千二百九十四万九千円の減額で、財政調整基金から、四千万円近くの繰入をしなければならなかったことは、どういうことか。

**答弁** 国保税が、所得の確定に伴って減額になったことによる。所得が落ち込んでいる。

**質疑** こういう景気の状態であるから、次も下がると思うが、その場合、財政調整基金から繰入れをすることになるのか。



特養 大崎やすらぎ荘

**答弁** 現状での財政調整基金の残高は、取り崩した後で、約五億五千万円の見込みである。

今後、二十二年度の予算の編成時期に、いくら取り崩しをしながら、税率をできるだけ変えないようなこと等、検討したい。

○平成二十一年度西海市介護保険特別会計補正予算（第二号）

保険給付費の決算見込による、居宅介護サービス費等の減額、高額医療介護合算サービス費を計上。

**質疑** 高額医療合算介護サービス費というのは、平成二十二年からなのか。

**答弁** 平成二十年四月から制度が開始された。一年間の高額サービス費について、基準額を超えた分を支給する。二十一年度に支給が開始された。

# 総務文教常任委員会調査報告

総務文教常任委員会は、平成二十一年十月二十二日から十月二十四日の三日間、「企業誘致及び定住促進の現状と対策」について『島根あさひ社会復帰促進センター』（島根県浜田市）を、「学校教育及び社会教育の現状と対策」について『島根県大田市』を調査した。

## 島根あさひ社会復帰促進センター

「社会復帰センター」は、施設の建設、維持管理、運営等を民間の資金、ノウハウを活用して行っている。

このセンターは、犯罪傾向の進んでいない男子受刑者二千人を収容できる施設として、平成二十年十月から運用開始されている。PFI手法を活用した刑事施設で、国と民間が二十年の契約を行い事業費が低く抑えられている。敷地は三十二・五ヘクタールで、民間職員の九割にあたる三百人を地元浜田市から雇用している。国の職員は現在百八十一人である。また構造改革特区制度を活用し、刑務所内に

設置された診療所は、地元住民も受診できる。近郊に専門医がいなくて、これまで遠方の病院で受診しなければならなかった診療科目が受診できるようになり地域医療の充実につながっている。

## まとめ

浜田市の社会復帰センター誘致は、大規模なまちおこしプロジェクトである。民間職員の雇用創出効果は非常に大きい。センター内の最大一日六千食の膨大な食材は地元から調達している。地元食材は、地元農業振興及び定住促進に対して計り知れない効果がある。

## 島根県大田市 教育委員会

島根県大田市における学校再編のこれまでの取り組み  
平成十九年二月に学校再編基本計画を策定した。この計画にもつき同年四月から学識経験者、市議員、教育・子育て支援関係者、PTA関係者、地域活動関係者、経済関係者及び一般市民の各層から構成された大田市学校再編実施計画検討委員会に、学校適正配置に関する検討を依頼し、一年間の議論を経て、平成二十年七月に学校再編実施計画が完成した。実施計画を実行に移すために、保護者や地域、校区、公民館館長の意見を聞き、統合枠組みごとにPTA正副会長会も実施した。地域によっては積極的に理解があるところと、検討が必要な地域と分れた。児童生徒数の減少の大きい地域は危機感をもっており統合に前向きであった。

スクールバスの運行については、目安を小学生四キロメートル、中学生五キロメートルとしているがルールどおりに行かない。統合するところは原則として小学生はスクールバスで対応、中学生は自力通学を基本にしながら公

公共交通機関が発達していないところは、スクールバスで対応する。  
その他協議事項として  
・ 幼保連携についての教育委員会と保健福祉所管の連携について  
・ 実施計画前に実施した意見募集の結果について

## まとめ

本市の学校再編問題は、保護者や住民の理解を得るには大きな困難を伴うであろう。単に児童、生徒数の減少、複式学級を解消するためだけでなく、西海市の学校教育環境をどのように改善していくか子どもたちの将来像をどのように描き、教育目標をどこに置くのか、また学校教育と地域づくりなどの関係から、西海市の学校教育と社会教育の改善点を設定しながら保護者地域住民への十分な説明が求められる。



島根あさひ社会復帰促進センター



大田市教育委員会調査

# 産業建設常任委員会調査報告

## 一、調査事件

農商工連携について

## 二、調査の経過

産業振興施策の一環として、農商工連携に取り組む必要性を考え、先進地の調査を行った。

## 三、調査の結果

十一月四日から六日までの行程で群馬県多野郡上野村、長野県上水内郡小川村で研修をした。まず上野村は六百八世帯で人口千三百九十九名。総面積は、百八十一キロ平方メートル、そのうち九十五％を森林が占める山村地域で、急傾斜地のため農産物に付加価値を付ける加工に目をむけ、村と農協で加工製造に力を入れていた。きのこセンター、木炭センター、菓子工房、そば店、直営土木等の事業を実施している。収支は厳しい状況である。村では積極的に工ターンの受け入れをし活性化を目指している。

上野村役場 産業振興課

質問

若者の働く職場の

確保対策と実績について。

**回答** 若者の働く職場として、きのこセンターを産業の一環としている。また新しい第二きのこセンターを設置する考えている。

**質問** 交流人口の増大と実績。

**回答** 観光推進室ができて三年目である。冬には浜平温泉へ紅葉の観光バスルートになっている。春夏には川遊び、秋には紅葉と年々観光客は増加している。

**質問** 農産加工事業の取り組み、公設民営化への考え方は。

**回答** 上野村振興公社を設立しているが、当分は村の直営で考えている。専門家のアドバイザーのもとヤコンジャム、プラムジャム、リンゴジュース他いろいろ研究している。

**質問** 市町村合併への動きは。

市町村合併への動きは。



まいたけの栽培

回答

黒澤丈夫元村長が「自治は小さいほど良い」との考えのもと、合併はしないのでいく考えている。東京電力の神流川発電所があり、年々減ると思うが、平成十八年度から固定資産税が二十七億円入っている。

株式会社 小川の庄 おやき村

小川の庄は昭和六十一年六月に農協・食品加工会社・地元住民が協同出資する第三セクター方式により設立。十一月には「おやき村」を開村し、おやき作りの体験ができる施設を建設。その後、一農業集落一品目づくりを目指し、村内七箇所に加工所を建設し、おやきを始め農家独自提案の加工品等、多岐にわたり製造販売を行う。国内ばかりでなく海外イベント等にも参加して普及を図っている。社員は三十九人、うち六十五歳以上は二十六人、三十五歳以上は十三人で、地域に貢献できる企業経営とするため、製造と販売が一体とした直売方式である。年々販売が伸び、平成

二十年度は八億円となっている。効果としては、信州西山地域の郷土食であった「おやき」を商品化して、全国、世界への普及につなげた。高齢者の知恵と技を



おやき村

生かした生きがいづくりや雇用の創出などから、希望の持てる地域づくりである。おやきの中では「野沢菜」（地場産百％）が一番の人気商品である。平成十九年度の入村者は八万六千人であり地域活性化につながっている。

**質問** 「小川の庄」設立に至った動機と実績は。

**回答** 第三セクター方式である。初代は青年団活動から始まっている。その中で地域をなんとかしなくてはという考えで、現在に至り二十五年目である。十五種のおやきがそろっている。社員の他パートとして九十人を雇用している。

**質問** 後継者育成への取り組み。

**回答** 人口三千百三十九人のうち四割は六十五歳以上である。イターンなど取り組んでいるが、実績は上がっていない。

**質問** おやき村「住民登録」制度と特典について。

**回答** 制度に登録している人は五万人おり、商品の案

内や情報提供をしている。特典として十％オフのサービスをしている。

**質問** 来村者数の動向。

**回答** 五、六万人くらいである。今後はもっと伸びる方向であるが、売り上げも伸び、材料が足りないという状況、現在では国産でないという信用性がなく、安心安全とはいかない。

## まとめ

二地区の先進地調査を行ったが、山また山の険しい急傾斜での山間地帯であった水田はなく米のかわりに麦を作り、その郷土食から生まれた品々やいろんなアイデアが生まれ、若者、高齢者ともに生き活きとした生活ができていた。西海市は農業・漁業、海・山・自然には恵まれている。しかし、今研修地が行なっていることを見習い、一早く特産品を生み出す必要が急務と考えられる。農林漁商工業の若者たちにより西海市農商工連携プロジェクトチームを市が指導のもと創設して、現在活動している各種加工グループも共鳴していただくことが、西海市の産業振興の一步と言える。そのためには、さらに調査が必要と思われる。

# 厚生常任委員会調査報告

## ○調査事件

- 一、市立病院の運営について
- 二、地域福祉の現状と対策について

## ○調査の経過

急激に過疎化・高齢化が進行している中に、合併後も公立で運営している病院があること、また住民自らが地域を興し、集落の存続に挑戦している地区があることから、高知県四万十市（旧中村市と旧西土佐村が合併）を選定、調査した。

## ○調査日時・派遣場所

平成二十一年十一月十一日



四万十市立市民病院調査

## ○調査の結果

場所…四万十市立市民病院  
西土佐(株)大宮産業

### 一、市立病院の運営について

運営状況について、旧中村市と旧西土佐村が、平成十七年四月に合併後、引き続き、病院を運営している実態と今後の見通しについて、病院側から説明を受け、質疑応答を行った。

この病院は旧中村市（人口三万四千人）に開設されたもの。

平成十六年度からはじまった、医師の臨床研修制度により、最大十九人いた医師が、六人にまで減少し、病床数の減と救急業務の撤回を、余儀なくされた。

この結果、医業収益は、極端に落ち込み、平成十九年度から、赤字補填のため、一般会計から、基準外の繰入（十九年度三億円、二十年度二億二千万円）を行っている。

### 特徴的な対応をしている

赤字繰入の財源確保に、市長等特別職、一般・病院職員、議員の給与五%カットを実施。今後も、人件費カットを想定

して、赤字充当する計画があるなど、市民の医療を第一義とし、維持のために、相当な行政運営を行っている。

また、院長そのものが示す医療への態度が、医局の同調を醸し出し、市役所、市民へ良い状況となっている。

### 医局内の連携と思いやり

院長の勤務が激務なことから、正月三日間は、医局の医師等も院長に休むように、要請したこと、また、院長がいる間は、何があっても付いていくという看護師の話は、あまり類を見ない説明であった。

### 基本線が見える運営

医師不足の苦悩、診療報酬の不採算性等が、全国の公立小規模病院を直撃している中で、この病院は「入るを計って、出ざるを制す」の経営方針を、何とか維持しようと努力している。

## ○調査の結果

### 二、地域福祉の現状と対策について

(株)大宮産業については、代表者と、西土佐総合支所長及び、高知県地域づくり支援課の地域支援企画員から、説明を受け、質疑応答を行った。

西土佐大宮地区は、旧西土佐村の中心部から、約二十キロメートルの愛媛県境にあり、保育所は、平成二十一年度廃園、小学校も平成二十三年度の巡回診療のみである。

集落は、百三十五戸で三百一人が暮らす。高齢化率は、四十四・九%。耕地が少なく、山林が九十二%の山間部の地区である。

### 商店が無くなる・どうする

農協の出張所が廃止され、地区の中で唯一、日用品・農業資材・燃料を販売する商店が、無くなるところから(株)大宮産業が立ち上がった。地区住民の八割の世帯から平均六万五千円の出資を募り、資本金七百円で発足。

### 県が大きな推進策

大宮産業の立ち上げの際、大きな推進役を果たしたが、高知県の地域支援企画員制度であった。

この制度は、地域の支えあ



旧農協支所を活用の(株)大宮産業

いの仕組みづくり」に、支援を行う目的となっており、住民の中に入って活動している。

### ボランティア精神で運営

経営は黒字となっているが、内情は、七人の役員報酬は合計で年間二十万円など、ほとんどがボランティアに近い。代表者の話しに、「一次産業にかかわる者は、この地域から、出ていくことができない」との件は、印象的であった。

これからは、高齢化が進む対策には、物品の宅配を行い、産業の拡大には、地産外商を柱に、農産物販売の活性化を目指している。

### 生き残りをかけて

集落の存続、住民の生き残りを、住民が負担しあって、工夫をこらし、見直しを協議している実状は、本物の市民力・住民力を見た思いである。

# 総務文教常任委員会調査中間報告

## 入札制度の現状と対策

平成二十一年九月、西海市商工会から入札参加手続きの簡素化と市内業者優先利活用を求める陳情書が提出され、総務文教常任委員会に送付された。よって委員会は、市の入札担当者から聞き取り調査を行った。

まず、簡素化については、

入札参加手続き申請時期の固定化と申請書作成時の記入事項の煩雑さに原因があり、市発注八十万円以下の物品の購入と百三十万円以下の工事、製造の請負では随意契約（合見積）で行われ、参加資格については制限はしていないが、市内業者の未登録などの把握が担当課で十分でない。

また、入札参加未登録の事

業者の指名は実績、信用などの不安があり、なかなか指名できないのが実態である。

次に、市内業者の優先的活用の現状については、公共事業の量と請負高を見ると、平成二十一年度はジョイント、ベンチャー（JV）方式を市内業者としてカウントしているが、これまでの実績額では市内、市外が約半分程度という比率である。

なお、改善策としては、市は議会、市内関係者からの意見、要望、入札での不落などの実態などをふまえ、入札方式の見直しや改善の必要性が生じその都度、契約規則、入札制度要綱などの改正を行っている。

## 改正の主な内容

入札参加資格申請は毎年一月十一日から二月二十八日であるが、市内業者は、随時受け付けができるものとした。

準市内業者の資格を厳しく制限し、事務所を構えるだけの事業所については準市内業者から排除している。

登録業者の格付けでは、市内業者においては、年間工事実績の最大数値とし、市内従業員数による加点を行うこととして、市内業者が

有利になるよう設定している。

工事成績評価を行い、格付けに利用することにした。

（ただし、共同企業の評定は、それぞれの単独企業に対する成績として算定）

また、指名業者選定では、市内業者を最優先することを目文化した。

地域活性化公共投資臨時交付金や経済危機対策臨時交付金などを活用する大規模工事では、指名入札を行う場合、参加者がこれまで規定を満たさなくても市内業者のみで入札実施できるものとした。

三回の入札で落札者がいない場合、これまで半数以上の指名替えを行い再入札を行っていたが、全下判断基準価格を新たに設け、入札参加者全員が最低制限価格を下廻った場合でも、最低制限価格と全下判断基準価格の間で最低価格の者が落札できることとし、日時を改めての再入札という時間的ロスが少なくなり、早期の発注となる。

総合評価落札方式の入札の回数を一から三回に改め、不落による再入札を防止することとした。また、評価項目で地域貢献として市内

の消防団員数に対して加点し、市内業者に有利になるよう改めた。

## 委員会のまとめ

管財契約課では、これまで関係規則、要綱の改正を重ね市内業者を優先的に活用する方策を対処療法的に執ってきたことが理解できた。

市内中小事業所に対する入札登録申請の簡素化と随時受け付けなどの見直しを行っている。

しかし、委員会質疑の中で、零細事業者も気軽に参加できる配慮と環境づくりが必要であると指摘があった。

また市内業者の実態把握が十分でないため、その結果、随意契約（合見積）は慣例的に入札参加登録者の中から業者選定を行っていた経緯が見られ、今後は商工会等との連携を密にし、物品の地元購入が容易になるような形にして行くべきである。

今後、業種別団体との意見交換を実施し、問題点の抽出を図り、市公共事業発注について公正を保ちつつ、市内業者の育成に貢献できる、あるべき入札制度の構築に向けてさらに努力することを提言する。



# LCAC等基地対策調査特別委員会調査中間報告

## 調査事件

LCAC等基地対策について

## 調査の経過

西海町横瀬郷のLCAC施設建設予定地を視察し、工事の進捗状況について九州防衛局から説明を受けた。  
また、基地政策の先進地である佐世保市を視察し、佐世保市の基地政策について説明を受け、意見交換を行った。

LCAC施設建設工事の進捗状況について

## 調査日、場所

平成二十一年十月九日

LCAC施設建設予定地横瀬

佐世保市の基地政策について

## 調査日、場所

平成二十一年十月十六日

佐世保市役所

## 調査の概要

平成十二年に旧西海町にお

横瀬浦公園（西海町）から見た LCAC 施設建設予定地（正面に見える山の裏側になる）



## 基地政策局を設置した経緯について

平成二十年四月に基地対策室から基地政策局へ昇格した。

基地交付金は固定資産税の代替措置として交付されるものである。  
佐世保市の対象資産は、千四百七十七億円である。対する交付額は現在での交付額は、七億六千万円である。  
八条事業では、防災船「つくも」と、高規格救急車を導入した。九条については、吉井中学校武道館屋根改修を行った。

## 基地交付金の状況と防衛施設周辺の生活環境の整備に関する法律第三条、第八条、第九条の取り組み状況について

基地交付金の状況と防衛施設周辺の生活環境の整備に関する法律第三条、第八条、第九条の取り組み状況について

基地があるということ、を真正面から捉え、住民の不安、不満を踏まえた上で、いかに佐世保のまちづくりを行うのかという観点から基地政策局となった。

## 米軍基地施設の監視体制について

現在五力所にモニタリングポストが設置されている。市民の安全性の確保、佐世保港の安全確保のために設置している。

原子力艦が入港した場合、測定をし、正常値かどうかを評価している。

## LCACの運用に関する対策について

LCACの運用は、米軍としての運用であるため日本国の騒音規制の対象にはならない。日本の国内法と同じレベルで判断するのが難しい。

## 佐世保港制限水域の使用条件

A 制限水域は、米軍施設前面から五十メートル以内の水域で、立ち入りすらできない。B 制限水域は、A 制限水域として指定されていない内港の水域と、C 制限水域内にある米軍の管理するすべてのブイを中心として、半径百メートル以内の円形水域であり、通行のみの目的では通ること

ができるが、米軍の船舶及び水上機がいる場合、百メートル離れなければならない。

## 米兵への対応状況について

米兵の事件の数は非常に少ない。ただし、どうしても報道の取り上げ方が大きくなってしまう。

友好適切な基地対策を講ずるため、関係諸機関との連携と連絡協議会の設置等をどのように対応しているのか

米軍佐世保基地対策連絡会議は、県の危機管理防災課と基地政策局との連絡会議である米海軍佐世保基地防犯連絡会議は、警察、防衛、米軍が入り会議を行っている。



浦頭引揚記念平和公園（佐世保市）から見た LCAC 施設建設予定地



ひらの・なおゆき  
平野 直幸 議員

限界集落の防止を図れ

**問** 離島・山間部では、過疎化が急激に進み、伝統行事の実施が困難になるなど、むら社会の存続が憂慮される。早急に、限界集落の対策が必要である。

伝統行事は、支障なくできているか。山間部には、間伐などの林業の推進を、図つたらどうか。地域支援プランナー配置と合わせ、職員力の向上に、専門的研修が必要と思うが、どうか。

**市長** 西海市全体での、六十五歳以上の割合は、三十%を超えている。

議員の貴重な提案を参考に、地域づくり活動を支援する人材の配置等について、研究していきたい。

六十五歳以上が五十%を超えている行政区は、崎戸で六、大島で二、大瀬戸で二、計十地区となっている。

また、五十五歳以上が、五十%を超えているのは、崎戸で十二、大島で十三、大瀬戸で十七、西彼で二、西海で一、計四十五地区となっている。

間伐については、今後も、説明会を行うなど積極的に推進していきたい。

支援員制度は、早々に構築したい。総合支所の単位に、モデル的に数名の配置

を考えた。

職員研修は、まずは意識改革の環境づくりに努めたい。

**教育長** 市内に、約三十の郷土芸能があるが、後継者の育成に苦慮している。うち、三団体が、伝統芸能の披露が、できない状況となっている。

**問** 伝統芸能等の保存を、CD等で計画し、予算化する方向は、示せないか。

**教育長** 保存については、非常に大切と思っている。保存できるように、取り組んでまいりたい。

江島の対策を急げ

**問** 限界集落対策で、待たなしは江島である。百二十四世帯のうち、一人暮らしが六十世帯。六十五歳以上は、百三十二人で、六十九・五%と、極めて厳しい状況にある。

地域の話も聞いて、強固な取り組みを、江島で実施できないか。そうすることで、平島対策が見えると思うがどうか。

**市長** 議員の指摘を十分に踏まえ、支援員のことも含めて、特に江島・平島対策については、重点的に対応したい。



江島の集落

員のことも含めて、特に江島・平島対策については、重点的に対応したい。



いわもと・としあ  
岩本 利雄 議員

徴収率100%を目指せ

**問** 平成二十年度歳入決算を見ると、一般会計、特別会計、企業会計において現年度分収入未済額の合計が、わかつている分でも一億四千万円を超えている。これが滞納となり累積され徴収できなかったものは、毎年多額の不納欠損となつて消滅している。現年度分徴収率を徹底的に向上させ、滞納、不能欠損という悪循環を断たねばならない。現状をどう見ているのか。

**市長** 各会計の現年度分収入未済額は、約一億四千万円を超えており、脆弱な本市の財政状況から、その現状の厳しさは強く認識している。一般財源の根幹をなす市税の徴収率向上は重要な課題であり、大多数の納期内納税者との公平性を確保するために、徴収率向上策を強化する必要がある。全市民的な収納体制を構築するとともに、納付しやすい環境を整備し徴収率の向上を図っていく。

効果が見える

イノシシ対策が急務だ

**問** イノシシ対策についてはこの四年間、毎回定例会で議論されてきたが市内周辺におけるイノシシ生息頭数は、年々増加

傾向にあると推定され、市民からのイノシシ被害についての苦情は後を絶たない。早急に実効ある対策を講じるべきだ。

**市長** 市内周辺におけるイノシシ生息頭数は、捕獲頭数からの推測では約六千頭、またはそれ以上いるのではないかと思われる。市内における捕獲頭数も年々増えている。この四年間、市が関係機関へ依頼した分で、一千八百九十三頭を駆除している。これに狩猟期における捕獲を加えると、相当数のイノシシがとれているが、年々イノシシ被害が拡大しているのは、駆除が繁殖に追いついていないのが現状である。

**問** イノシシ被害についての市民からの苦情ばかりで、市としての対策が見えてこない。専門の対策課もしくは対策室を新設したらどうか。またイノシシ対策についての実行計画書を提出すべきだと考えるがどうか。

**市長** イノシシ対策の専門部署については、四月の市の組織機構改編の中で対応できないか検討している。先般イノシシ被害についての庁内対策会議を開催し、

全庁的に取り組むことを確認している。

実行計画書の策定については、関係部署と協議したい。



イノシシ被害の水田



こじま・としき

小嶋 俊樹 議員

### 中高一貫教育の方向性は

**問** 大崎高校と市立中学校の一貫教育の実践は現実化の方向性にあるか。

**教育長** 大崎高校については、今のところすべての条件を満たすよう努力しており、大島、崎戸地区の中学校と大崎高校との中高一貫教育の導入は可能であると考えている。

今後、実現にあたっては住民、特に保護者の理解が不可欠であり、保護者説明会等を開催し可能な限り努力したい。

**問** 他の高等学校でも一貫教育の可能性があり得るか。

**教育長** 条件を満たす高校がなく、市内他の高校との中高一貫教育の導入は難しいと考えている。

**問** 中高一貫教育に関しては、文部科学省は推進の立場であるが、西海市は今後、研究推進する考え方はあるか。

**教育長** 県においては、併設型と連携型を推進している。

本市においては連携型中高一貫教育を関係者と協議し進めていきたい。



長崎県立大崎高等学校

### 少子・高齢化する地域の活性化策は

**問** 地域力を生かした持続可能なモデル地域をつくれぬか。

**市長** 平成三十年には高齢化率は、三十八%に達するものと推計している。このような状況の中で本市も国の支援を利用しながら、各地域に有する歴史文化等の特色ある、地域資源を最大限活用したまちづくりをしたい。提案されたモデル地域も今後、まちづくり施策の中で十分研究したい。



やまくち・よしはる

山口 好晴 議員

### 政権交代による地方財政への影響は

**問** 現政権は、来年度予算の各省の予算概算要求に対し、廃止や削減などの見直しを進めているが、これらが地方財政にどのような影響を及ぼすのか。

**市長** 現行制度の改廃や新制度の創設などが想定されるが、厳しい行財政環境にある地方自治体の諸事情を十分勘案してもらい、市民生活の安定を図りたい。

本市への影響としては、子育て応援特別手当事業の廃止や、地域活性化の公共投資臨時交付金及び耕作放棄地解消緊急整備事業の減額が見込まれるが、合併特例債や基金取り崩し等で財源を確保したい。

### 失業対策は

**問** 総務省の調査によると、九月時点で完全失業者の数が、全国で三百六十三万人に達しているが、デフレスパイラルによる不況の長期化は当分続くと思われる。西海市においても相当の失業者が出るのではないか、この問題の対応は。

**市長** 県の雇用対策基金を活用した雇用の創出に努めており、今年度は既にふる

さと雇用再生事業において、三人雇用、緊急雇用創出事業において三十六人の雇用を行い、さらに、追加で二十人を雇用したい。今年度、産炭地域新産業創造等基金事業において、長崎南部森林組合など三団体で四十九人の雇用が見込まれる。同時に工業団地の造成の検討を進め、新たな企業誘致により雇用の場を確保したい。

### 国道二〇二号小迎から川内間の改良は

**問** 四、五年前に比べ、大島造船などの通勤者の増加によって、車両の数が増加しており、現在の状況では、重大な事故も起こりかねない。カーブ、小迎交差点あたりの改良ができないか。

**市長** 横瀬のLCA C基地関連の予算の活用ができないか。当該箇所は、二車線の改良済みであるが、走りにくさがあることから県としても現地調査を行っている。

LCA C基地関連の補助金、交付金の運用についても関係地区以外の事業も含めて計画をしている。



小迎から川内間の道路



あさだ・ゆきお  
浅田 幸夫 議員

西海市来年度基本方針

**市長特別枠創設の意義は**

**問** 市長特別枠を創設した理由は。

**市長** 重点施策について、市長特別枠を設け、予算を重点的に配分することにした。各部横断的な取り組み調整を図るため、私を交えた幹部職員同士による、ブレゼンテーション方式により事業採択をする。

基本テーマ「さいかい力の創造」を設け、「自然・環境・人が輝く活力あるまちづくり」にマッチしているか、予算枠に限りがあるので、枠配分方式の基本原則を崩さないことが条件になる。

**問** 枠配分方式の中身は。

**市長** 従来の査定方式を見直し、見込まれる一般財源を、各部署ごとに一定配分し、その範囲内において各担当課が主体性をもって、事業を選択して調整する。

**どうなる！ 雪浦診療所**

**問** 雪浦診療所を指定管理者により、再募集していたが、応募者が無かった場合の対応について。

**市長** これまで二回、指定管理者の募集をしたが、応募なしの結果となり、厳しい

い状況ではあるが、引き続き指定管理者も含め、民営化に向けて努力する。それまでの間は、地域医療の継続性を最重要と考え、直営診療所として対応する。

**問** 公設民営・民間移譲に切り替えるべきでは。

**市長** 完全な民間移譲も何ら問題はない。意欲的な診療行為を行えば、民間として十分成り立つと思う。これからは、医師を精力的に探す。



雪浦診療所（大瀬戸町）

**県営職員住宅の有効活用を**

**問** この件は、西海市長より金子知事への要望事項の一つに取り上げられた。どのような有効活用策を考えているか。

**市長** 県の考えは、今後も入居の見込みがない住宅については、処分等を検討している。若者の定住など、積極的な有効活用を検討する。



なかお・きよとし  
中尾 清敏 議員

**西海市消防活動状況は**

**問** 現在の消防団員と充足率は。

**市長** 千三百六十七名で八十七・九%です。

**問** 各消防本部隊の活動状況は。

**市長** 西彼・西海・大島の本部隊では平成十九年度に組織機構の見直しで総合支所勤務の隊員が減少した。初期消火活動が行えない状況であり現在、火災発生時は現場での連絡等の後方支援事業を中心に活動を行っている。崎戸、大瀬戸の本部隊は従来どおり維持している。

**問** 二百名の欠員がある。定数削減も考える時期ではないか。

**総務課長** 統合を含む見直しを团の方に提示し、行政内部において検討を進めている。

**問** 戸別受信機の設置状況は。

**市長** 西彼町三千六十台、西海町三千五百八十三台、大瀬戸町二千三百九十七台、大島町十二台、崎戸町百四十二台で大島町では難聴地域世帯のみ設置。

**問** 住宅用火災警報器の設置は。

**市長** 一万一千九百五十三世帯の中で七千五百八十世帯の設置で、設置率は六十三・四%である。

**問** 消防ポンプ車乗り入れ困難な地域があると聞く。状況は。

**市長** 家屋密集地で道路幅員が狭い地区が西彼三箇所、西海五箇所、大瀬戸四箇所、大島三箇所、崎戸二箇所また、消防署のタンク車が入り入れできない地区は西彼伊ノ浦湾岸地区と七釜本郷地区です。

**問** 市立病院の救急車受け入れ態勢は万全か。

**市長** 市立病院は救急告示病院ではないが昭和四十九年開設以来、救急協力病院として二十四時間の受け入れを維持している。十九年度は百八十八回、二十年度は百八十九回で二十一年は十一月末までに百二十一回となっている。大島、崎戸以外の患者数の割合は二十五%である。今後、消防署と連携を密にし地域の救急医療の確保に努める。

**問** 市内のヘリポートの状況は。

**市長** 現在市が所管する場外離着陸場として十五箇所、県所管二箇所、地区所管一箇所、市内企業所管一箇所合計十九箇所のヘリポートがある。ドクターヘリの利用は十九年度八回、二十一年度十七回、二十一年度で十六回でドクターヘリの利用は高く、機動力による救命率は高くなっている。



ヘリポート（西海町伊佐ノ浦公園）



ひらいみつひろ  
平井 満洋 議員

### 市立病院の対策は

**問** 市立病院について、合併からこれまでの経過を尋ねる。

**市長** 西海市医療検討委員会を設置し、経営改善について諮問を行い、前市長に対し、「病院は存続すべきである。しかし、今までの病院経営では存続できない。事業形態の変更を含めた根本的な見直しと、収益の増加策、経費の削減策等、個々の改革が必要である。」との答申があった。

答申を受け、「経営改革のためには、公での経営ではなく民間の経営手法を生かす非公務員型の地方独立行政法人、公設民営の指定管理者制度の導入並びに民設民営の民間移譲を念頭に置いて進める。」という基本方針を策定し、病院として存続できないか調査研究を行ってきた。

**問** これまでの一般会計からの持ち出しが、総額いくらか。

**市長** 実質の赤字補填のための一般財源としては、四年間、七億七千万円になる。

### 民間移譲への進捗状況は

**市長** 主に県外の事業者が関心を持ち、提案をいただいているが、地域医療を確

保し、かつ、充実する観点から、改革の情報収集として、提案を聞いている段階である。

**問** 売上げも上ってない病院であれば、この際、給料カットを考えては。

**市長** できないことはないが、職員の方は、職務に努力をし、勤務についているのだから、市立病院だけの給与をカットするということは考えていない。

### 市職員給与は適切か

**問** 職員が適材適所に配置されているか。

**市長** 勤務評価制度を実施しており、所属長から職員の勤務状況等を報告させ、人事上の参考とし、職員自身の申し出や上司からの報告を総合的に判断し、人事異動を行っている。

**問** 給与体系は適切か。

**市長** 地方公務員法の規定に基づき、国の給与体系に準じながら、県内各市の状況を踏まえたものである。

**問** 現在、西海市の財源事情において、管理職の給与は高いと思うが。

**市長** 財源状況の推移を見ながら考える。現段階では、そういう状況にないかと判断している。



人事給与を定めた例規集



ともながたかひろ  
朝長 隆洋 議員

### 次年度の予算編成方針は

**問** 厳しい予算環境でも、将来を担う子どもたちのために思い切った方策を。

**市長** 少子化対策としては、保育所や幼稚園の第二子の保育料無料化を含めた保育料の軽減を継続。新たに「産後のママサポート事業」、発達に不安のある乳幼児を対象とした「おあそび教室」を開催。高齢者関係では、憩いの場「わいわいサロン」の拡充、介護保険制度と連携した総合的な福祉サービスの提供に取り組む。

政策調整班、水産振興課を新設し、特産品の開発、ブランド化及び流通戦略等の総合企画の充実、また総合支所においては地域サポーターの設置を検討する。税や使用料などのコンビニでの収納やコミュニティ交通の充実を図る。工業団地造成についても検討を進めている。

### 大串地区再開発計画は

**問** 高規格道路の有効活用は、政策戦略の大きな柱である。早期に交通拠点を確立し、ゾーン別の発展策と、高校等の通学アクセスを整備すべきでは。

**市長** その重要度は十分に認識している。ただし大型事業を抱える現在の市の財政

状況からして、早期の事業着手は困難な状況だが、今後の景気の動向をみただで慎重に検証を進める。

### ボランティア団体の

#### 把握と支援は

**問** ボランティア団体を整理、把握し、支援協力体制を整えるべき時期では。

**市長** その活動には心から敬意を表する。市民協働の方向性を定めた推進プランを策定し、できる限りの支援を行い、活動しやすい環境整備を図っていききたい。

### 次年度の教育行政の方向性は

**問** 未来を担う人材の育成は有形、無形の財産として、将来の西海市の発展に必要不可欠である、市の教育行政の方向性は。

**教育長** 子どもたちの将来を生きる力を育み、郷土に誇りを持ち郷土を担い、広く社会で活躍する人材の育成を図る。地域社会を支え、地域力を高める学習活動の促進を図りたい。特に、西海市独自の施策として、「美しい日本語」を伝える教育施策を推し進め、情緒、道徳性、郷土の自然を愛する心を育てていく。



書きぞめ大会



みやもと・かずあき  
宮本 一昭 議員

### 現政権の地域主権に対する

#### 考え方は

**問** 地方自立についての認識はどのように考えるか。

**市長** 現段階では国家という枠組みの中での地域主権の中身が不透明であり、今後とも改革の動向を注視したい。

**問** 事業仕分けの市財政への影響と、地方交付税の確保はどうか。

**市長** 今後現行制度の改廃や新制度の創設等が想定されるが、地方自治体運営が困難を来し、市民生活の安定に影響が及ばないよう十分に配慮されることを願っている。地方交付税等の歳入見込みについては不透明な状況である。今後予算編成においては、適切な見込みによる歳入の確保と財政規律に留意し、これまで以上の歳出改革努力に取り組み。

### 農業政策は

**問** 農家戸別所得補償制度に対する考え方を問う。

**市長** 現政権が打ち出した農家戸別所得補償制度については、対象品目が米、麦、大豆、菜種とする情報があり、今後の予算決定に注目している。

**問** 拡大する耕作放棄地と遊休農地対策は。

**市長** 農業委員会と共同で現状把握を行い、有効活用を努めている。二十二年度予算については、事業仕分けの対象になっており、国、県の補助事業を活用しての放棄地解消事業は厳しくなるのではとの予測をしている。

**市長** 現在、西彼北部地域園芸廃用プラスチック適正処理推進協議会が年一回、回収を行っており、市もその経費の一部を負担している。

**問** 農業における産業廃棄物処理は。

**市長** 現在、西彼北部地域園芸廃用プラスチック適正処理推進協議会が年一回、回収を行っており、市もその経費の一部を負担している。

**産業振興部長** 農業用ビニール等の廃棄物については、量的なことも考慮し、年二回処理実施について、推進協議会と協議のうえ検討したい。



点在するビニールハウス群

### 市立小・中学校の現状は

**問** 不登校児童・生徒への対応は。

**教育長** 学校教育問題対策協議会、民生委員会、PTAの協力により以前に比べて半減して改善に向っている。

**問** 不審者出没の情報があるが、その対策等はどうか。

**教育長** 市内にあるそれぞれの機関が横の連携を密にして被害防止に努めている。



すぎざわ・やすひこ  
杉澤 泰彦 議員

### 離島生活航路としての役割は

**問** 平島、江島への旅客定期航路船「フェリーみしま」



江島、平島の海上交通の要、フェリーみしま

は島民の日常生活を担う重要な航路であり、食料品など生活必需品もこの船によって島へ入ってくる。市はこの事業の株主であり、貸付金、補助金を支出しているが、荒天による欠航ではなく、エンジントラブルで三日間欠航になったことがある。その間、島の生活必需品が滞った。このような場合、代船運航をすべきである。今回のようなことが前例とならないよう、申し入れをしていただきたい。

**市長** 島民の生活必需品が三日間も滞ったのは危機管理に欠けており、また、私自身が知らなかったことも異常事態だと思ふ。今後、このような事態が発生しないよう、厳しく指導をしていきたい。

### 視覚障害者福祉政策の

#### 充実を図れ

**問** 西彼町でボランティア団体が広報誌

のテープ音訳をされているが、市はどのように把握し、どのような支援を考えているのか。また、長崎県視覚障害者情報センターとの連携はどのようになっているのか。

**保健福祉部長** 主に西彼町のことを中心に音訳してテープに吹き込み、西彼町在住の視覚障害者の方に届けている。現在、市独自の活動支援はやっていない。情報センターについては西海市も同センターのサービス内容について情報提供している必要があると思っている。

### 市内消費拡大策は

**問** デフレ状況下、プレミアム付きの商品券は第二弾、第三弾と打っていくことにより、確かな効果、消費の定着につながる。市内の中小店舗の疲弊は、文化の喪失でもある。その認識のもとに対応していただきたい。

**市長** 市民が等しく歓迎できるように「さいかいほつと券」を今後も検討したい。

### 待ったなし、市立病院改革

**問** 今、すべき改革は最高責任者として市長が病院に向き、指示、命令する方法はない。入院患者があと五名増え、一日の外来患者があと五名増えるだけで年間、約三千三百万円、医療収益は上がる。決して不可能な数字ではなく、今、こつこつ努力しないのではないか。

**市長** 現状を何とか打開するために、最大限の努力をし、最善の策を見つづけるために、今回二百万円のコンサルタント委託料を上程している。理解をいただきたい。



ながた・りょういち  
永田 良一 議員

### 西彼総合支所移転の経過は

**問** 第三回九月定例会にて旧オランダ村に耐震性の低い西彼総合支所移転する議案が可決して三カ月目となっている。その後、

**市長** 十月の西彼地区定例区長会で今後の経過について説明した。十月二十日に設計委託業務の入札を実施した。白アリ対策工事、改修及び電気、設備関係工事については、年明け早々に入札を予定している。西彼総合支所移転については四月末には移転できる見込みである。

**問** オランダ村を再生したいボランティアグループの中に、「風車を回す会」があった。その方々から支所移転後には風車を回す考えはこの意見があったが、どのように思うか。

**市長** 自分達でできることは、自分達でやろうとする多くのボランティアの、方々と協議を重ねて、オランダ村のシンポル的な風車であるた



耐震性が低い西彼総合支所の移転

めに、回すという前提で再生を図りたい。  
**問** 太陽光発電により風車を回す計画や、支所内での節電の考えはないか。

**市長** 検討していないわけではない。ただ、風車だけに活用する問題も、公共的部門や、商業的施設全体となると設備等に相当の財政的出動となるが、教育的な配置も、あるいは自然環境問題等々も考慮に入れ検討する必要がある。

**問** Bゾーン、Cゾーンの今後の進捗状況は。

**市長** Bゾーンについては、民間運営会社を設立してテナント募集システムで行う考え。現在運営会社とは水面下で話しが煮詰まっている。Cゾーンは福祉関係で、民間法人から複数話しがきている。平成二十三年度までにオープンできるようにしたい。

### 汚泥再生処理センター整備事業は

#### 整備事業は

**問** 敷地造成工事の進捗状況は。

**市長** 敷地造成工事と土捨場敷地造成工事と二つに分割して発注し、両工事とも樹木伐採、進入道路整備を着工中である。

**問** 平成二十三年度に供用開始することになっている。二力年で完成できるか。

**市民環境部長** 若干遅れているが、二十三年度のプラント設置に向けて努力する。



たぐち・のぼる  
田口 昇 議員

### 平成二十二年度予算編成の見通しは

#### 見通しは

**問** 衆議院総選挙の結果、民主党が大勝政権交代による予算編成への影響は。

**市長** 政権交代を果した民主党政権のもと、これまで例を見ない予算編成が行われようとしている。行政刷新会議の事業仕分け、地方交付税の抜本的見直し等現段階で影響について判断しかねる。予算案の閣議決定に注視するとともに今後国が示す地方財政計画もあわせて本市の予算編成に反映させなければと考えている。

**問** 予算編成の基本方針、重点施策、規模について。

**市長** 市長就任後初めての当初予算、マニフェストに掲げる「全事業の見直しを行い、無駄を省く」ことを踏まえ歳入に見合った歳出構造への転換、一般財源ベースによる部、同単位の枠配分方式の導入、徹底した歳出削減及び新たな歳入確保、重点施策については、市長特別枠を設け、予算を重点的に配分、「さいかい力の創造」「自然・環境、人が光り輝く活力あるまちづくり」に取り組みたい。予算規模は約二百億円程度と見込んでいる。

**問** 歳入歳出見通しについて。

**市長** 厳しい経済情勢の中、今年度歳入予算で計上した佐世保広域圏組合出資返還金など約三億強の一般財源が減収とな

り歳出ではごみ処理施設、汚泥再生処理センター整備、学校施設の耐震事業、防災無線統合整備事業等大型事業が大幅増額となるため非常に厳しい財政運営が見込まれている。

### 決算時における収入未済額の解消対策は

**問** 平成二十年度西海市一般会計決算、厳しい財政状況の中、多額の不納欠損及び収入未済額の対策は。

**市長** 決算において一般会計の収入未済額が約四億四千八十万円ある。この収入未済金の解消は重要な課題である。先般西海市公金滞納処理対策委員会を開き滞納状況の共通認識と今後の徴収対策等検討し今月を滞納徴収強化月間と位置づけ電話催告訪問徴収の強化、賞与、給与動産の差し押さえ、インターネット公表市営住宅の明け渡し請求、保証人に対する納付指導依頼、保育所との徴収事務委託の拡大、児童手当等未納保育料への充当相談など取り組みを強化したい。

**問** 国民健康保険税や水道料金等の収入未済額の解消対策は。

**市長** 国保税収入未済額約二億七千万円簡易水道事業約三千六百九十三万円あり一般会計同様重要な課題である。休日納税相談や電話催告、夜間の臨戸徴収の強化、水道の給水停止等あらゆる措置を講じながら徴収率の向上、収納未済額の圧縮に努めたい。



予算審議



よしだ・としのり  
吉田 年位 議員

市営住宅の改修と整備を急げ

**問** 市営住宅については、公営住宅を始めたとして、一千二百五十戸を管理しそのうちの二十八戸が耐用年数を超過し、二百九十二戸が建てかえ要件を満たす。耐用年数の二分の一を超過しているとのことであるが、他の住宅においても改修を要する箇所があるのではないか。

**市長** 昭和三十年から昭和四十年に建設された木造や簡易耐火づくりの住宅が多く含まれ、老朽ストックの解消が急がれている状況である。このような状況を踏まえ、本年度策定した西海市営住宅ストック総合活用計画により財政状況を見きわめながら計画推進し定住化の促進と地域の一体的な発展と快適性利便性を兼ね備えた住環境の整備を進めたい。

**問** 大島町徳万団地、蛤団地の整備検討は。

**市長** 両団地とも建設後三十六年から三十七年が経過しており、老朽化が著しい状況である。これまで補修を行っている。平成二十二年度で予定している建替え基本計画書において、土地の借地の問題、入居者の意向、財政状況なども見きわめながら、将来的には蛤団地に集約する方向で検討したい。

公民館活動の活性化を図れ

**問** 文化芸術をどのように受け止めているか。

**教育長** 市民が文化、芸術に親しみ感性を磨くことは日々の暮らしの中に潤いを与え、生きがいづくりに寄与し、地域においては人的交流が促進され、郷土愛の醸成が期待される。市民がより質の高い文化、芸術に触れ合う機会をつくりだすことができるよう努めていきたい。

**問** 公民館活動についての助言や使用料については。

**教育長** 市内の各公民館等にて行われている文化、芸術活動に対する支援については、各町文化協会が主催する文化祭開催及び機関誌の発行に係る経費等に対して補助金を交付している。また文化活動を行う、各種グループにおいては社会教育関係団体として登録され文化協会に加入されれば公立公民館等における使用料の減免を受けられることになっている。具体的には、各町文化協会は冷暖房使用料を除いた、施設使用料を全額減免し、また文化協会

加盟の各種文化グループの利用については、施設使用料の半額を減免している。



鬼火（大島町太田尾地区）

平成二十二年度予算編成の基本方針は



すぎもと・ひでのぶ  
杉本 秀伸 議員

**問** 政権交代による自治体の予算への影響は。

**市長** 国の事業仕分けで様々な評価結果が出されたが、現段階で市の予算編成にどれくらい影響がでるか判断できない。

**問** 無駄を省き、行財政改革によって健全な行財政運営を確立するための予算編成は。

**市長** 基本的には財政規律の確立に留意しながら編成する。特に歳入に見合った歳出構造へ転換する。部・局単位の枠配分方式を導入して、一般財源ベースで5%のマイナスシーリングを設定する。

**問** 5%削減分一億五千万円はどのように使われるか。

**財源管理課長** 予算の枠配分と市長特別枠におさまらなかつた分を調整枠とする。その財源としてこの一億五千万円を充てる。

**問** 予算についての基本的な考えは。

**市長** 将来を見据えた財政計画を確立すること。合併算定替えが切れる十年後に予算規模百五十億円程度を基準に近づけていきたい。

市立病院の現状と方針は

**問** 市立病院について基本的な考えは。

**市長** 地域医療を担保する中で、最善の策であれば民間移譲も視野に入れるべきと考える。そのため今回の補正予算に改革の具体的な可能性を調査する委託料を計上した。

**問** 病院の経営は改善されているか。これまでの改善の成果は。

**市長** 現在、経営状況は一段と厳しくなっており、今年的一般会計からの繰入れ総額は三億円を超える。また経営改善については大きな成果もなく現在に至っている。

**問** 毎年四、五千万円ずつ収益が減っている。これは実質的な経営にあたる院長の責任だが、きちんと対応していないのでは。

**市長** 院長と職員とのチームプレーがとれない状況だ。市長として経営改善につなげるチーム医療に心がけるよう要請した。地域住民の市立病院を残してほしい気持ちは痛感している。絶対、病院を残すこと、地域医療を確保することを前提に取り組み。



市立病院



井田 利定 議員  
いだ・としさだ

## 平成二十二年度

### 予算編成方針は

**問** 予算編成について基本的な考えは。

**市長** 全事業の見直しを行い、無駄を省き歳入に見合った歳出構造へ、各部局単位の枠配分方式を導入し、政策立案、住民説明、事業実施、事後評価等を行う自己決定、自己責任型予算編成である。

**問** 予算規模は。

**市長** 現段階では国が示す地方財政計画の情報もなく交付税や譲与税等の歳入見込みについて不透明であるが、約二百億程度の規模を見込んでいる。

**問** 市民からの要望事項が国、県の補助がないとの理由で実施されなかった事業について市長特別枠が使えるのか。

**市長** 市民と行政が一体となり、市民力、地域力、職員、行政力を総称して「さいかい力」と位置づけ、自然、歴史、文化等地域の財産が光り輝く西海市の実現に向けた予算編成である。

**問** 枠配分方式、市長特別枠の導入について職員研修等の実施はあったのか、また理解されたのか。

**財政管理課長** 十月十四日に予算編成の説明会を実施し、理解不足の点については逐次財政管理課で対応している。市長特

別枠については政策企画課が所管。

### 市民の安心・安全対策は

**問** 市民生活に密着した身近な生活道路、通学道路の安全な対策は万全であるか。

**市長** 歩道の整備については危険性や緊急性を勘案し、逐次整備を行っている。通学路については、各学校に通学路の安全点検とこども一〇番の家の確認を依頼している。また三名のスクールガードリーダーや地域防犯リーダー、青色パトロール団体、登下校ボランティアなど支援をいただいている。

**問** 水道管の布設替え工事が歩道を中心に実施されているが、終了後の歩道が凸凹で原形復旧されていない所がある。高齢者等にとって危険である。

**市長** 工事完了後、職員による工事完成検査を行っている。



安全対策が求められる生活道路

**問** 防犯灯、道路灯など夜の安全対策について各町平均的でない。特に西彼町地区に設置が少ない。

**市民環境部長** 年間四十基の新設を行っている。設置基数の少ない西彼町を先行して実施している。



田川 正毅 議員  
たがわ・まさき

## 国道（榑浦）板の浦）

### 改良工事の対応は

**問** この区間は雪の浦橋区間とともに非常に危険な箇所であるが、県に再三にわたって陳情してきたところであり、一日も早い完成が望まれる。

そこでこの工事に伴い市営駐車場、市民プール、ふれあい市の移転問題が発生しているが、経緯と今後の計画は。

**市長** 県北振興局において測量を完了、用地買収交渉中である。

市有地については移転補償契約が完了



大瀬戸総合運動公園体育館

し、旧特産品直売所については解体、除去を終えた。

来年度は棧橋待合所、市営駐車場の移転を計画、次に市民プール移転となる。

**問** 松島待合所の件であるが、松島住民は非常に不慣れた立場に立たされている。

旧町時代から松島電発を始め、島民に大変にお世話になっているという気持ちで大瀬戸町民は持っている。降雨時の対策、待ち時間のためのテレビ設置の考えは。

**市長** 交通手段、医療にしても地域の人にとっては不公平感があると思う。これを少しでもなくすことは行政の責任でもある。

旧三井松島炭鉱の遺構の保存、桜坂のPRの動きもある。そういうことに行政も協力し環境整備を行いたい。高齢化がかなり進んでいる地域であるし、行政施策を今後とも図って行きたい。

### 西海市の森づくりは

**問** これまで三回にわたって森づくりの提案をしてきた。

いずれも当時の市長は前向きな検討とのことであったが、いまだに手付かずの状態である。市長の考えは。

**市長** 県が進めている森づくり事業を本市としても積極的に活用し、市民にもPRし、また市の事業としてドングリの木を中心とした、「子供の森づくり」を検討したい。



### あいさつ運動を通して

松崎 洋山

僕は、二年間生徒会に所属しその中の一年間は、生徒会長を務めました。一年目は、周りが先輩ばかりだったので、自分から動くことはなく、任された仕事をこなすだけで精一杯でした。そんな僕だったので、生徒会長になったときは、何をすれば良いのか分からず、あたふたしていました。そんな時、二期前の生徒会長から受け継がれてきた「あいさつ運動」のことを思い出しました。僕は、「あいさつ日本の学校」を指し、「あいさつ運動」に取り組みしました。

最初の方は、あいさつを元気に返してくれる生徒もいましたが、恥ずかしがって小さい声で返したり、あいさつをしない生徒の方が多いいました。そこで、できない人にその場で注意したり、教室で呼びかけを行ったりしました。その成果が少しずつ出たのか、あいさつを返してくれる生徒が多くなったり、生徒が廊下で先生や来賓者に自分から率先して、あいさつをするようになりました。おかげで、近所の方々が学校を訪れた人が、「南中学校はあいさつのできる学校」と言ってくれました。そのとき「あいさつ運動」をして本当に良かったと思いました。



西海南中学校 生徒会長 松崎 洋山くん

学校と猪 私には心配事が二つある。ひとつ目は学校のこと。現在小学六年と四年の娘たちは、学校に路線バスで通学している。二人とも、学校は楽しいと言っているし、私も学校の雰囲気が好きだ。ただ、毎年のように児童の数が減っていることが、とても寂しく悲しい。

上の娘が五年生の時、六年生との複式学級になった。なにしろ学校始まって以来の複式だったため、当初は子どもたちも保護者も不安でならなかった。だが一年後の子どもたちは、五年生も六年生も、学力を下げることとは無く、かえって、お互い良い意味で刺激しあって逞しく成長していた。先生方の日々のご尽力のお蔭だと心から感謝している。とはいえ、次の年も複式学級はなくなり、先では二学級が複式になることも市の調べで分かっている。昨年末に、小学校の近くの公民館で、大島・崎戸地区の中学・高校の学校適正配置について『の懇談会が小・中学校の保護者を対象に行われた。少子化が進み西海市の児童生徒数が減少の一途をたどる中、子どもたちへの望ましい教育環境の整備をしようというものだ。将来を見据えて、今どうすることが一番良いのかを地域ぐるみで考えていかなければならないと思う。学校は子供たちだけではなく地域にとっても、とても重要な場所だからだ。もうひとつの心配事、それは猪だ。先日、二人の娘たちが、海で猪が死んでる」と血相を変えて帰ってきた。確認に行くと、八十センチほどの子供の猪がブカブカと浮いていた。しかも二頭「自殺？まさかね。」と呟いてその場を後にした。猪の死因は分からないが、ここ数年で猪の数が増加していることは分かっている。ついこの前も、家のすぐ近くで被害が出た。何とかならないものだろうか。



議会広報特別委員会



新しい年を迎え、西海市も今年で合併六年目に入り、トラのごとくたくましく力強く前進する事を願っております。広報委員会としても皆様に喜んでいただけるよう、少しでも読みやすく記事の内容が充実したものになるよう努力していきたいと思っております。よろしくお願いたします。